

總ての物が、本當に世の中のすべての物が少しも小止みなく進歩しつゞけて居ます、心持の好い程、それは或る點から云つたらば退歩だとか行きづまりだとか云ふ事も出来ませうけれ共、其の退歩なり行きづまりなりが一步上から見れば、共に進歩への一階段であり、廻轉への一前提である時に、私達はすべての物に吐息をついたり、見切りをつけたりする事をしないで自分の行くべき道にぞし／＼進んでゆき度いと思ひます、自分が自分の目的に向つてぞん／＼光明を認めつゝ進んでゆかれるといふ事は、何といふ幸福な事ませう、勿論其處には過去も必要です、迫害も必要です、強い自己も謙遜な自己も柔順な自己も必要です、人の愛も必要ですけれ共、私共は徒らに過去に、――未來許りにあくがれぬと同時に、――捕れてしまはれ度くない、過去は私共の教へ手であり一部の忠告者です、けれ共過去の忠告は私共が進歩しようといふ爲に用ひてのみ益があるのでは

無いでせうか、「何でも昔がえゝ」、「昔でなくちや駄目だ、今時の若い者は」、といふ調子で、すべて現在と、現在の前に展開されている大切な輝いて居る未來といふものとの間に、自分で作つた厚い／＼壁――或る意味に於ては不平とか、冷笑とか、又失敗、廢殘とかから無理強に絞り出した超越といつた様な物で骨子を作つた、――を築き上げて、自分はしきりに過去を振り返り、過去のみを愛し、過去と語つて得々然としてすまして居る人もあります、何といふ事ませう、誰か「貴方は過去を友達にしないではいけませんよ」と命令したのでせう、若し命令されても何故もつと求めなかつたのでせう力が足りなかつたら何故出来る丈でも進まなかつたのでせう、貴い過去の事をよく温ね、その貴い昔を更に貴くし、光輝ある物とする爲に、これを背景として一層進歩させて残して行く事が、もつとよい事ではないでせうか、徒らに昔許りに捕はれて、生れた時を出發點に逆な生涯に入り込むのは、唯折角の過去を破壊する様な物ではないでせうか、私共の行く道に何んな妨の山が有つて、私達は暗い其のまは

りをぐる／＼何時迄か周らなくてはならなくても、それでも、暗さの中に突き進んで奮闘して居る一方に、絶えず輝いた望と、日々に新にされてゆく力とを持ち度いと思ひます、何んな仕事でも一度はグツセマネを越さなくてはならないのですもの、爲すべき事であるならば私共は此のきれいな血汐を以ても最も真面目な生涯のマーチを書き記させよう。

過去にはまる一方に型にはまるのも何うでせう、私共は始めには何うしてすべての理論やすべての説をうかゞはせて戴かなくては歩けません、けれ共早晩數多の人達が築き上げて呉れた大きな礎の上に立つて、充分に研究し、鍊磨し、多くの經驗を知つて更に極めて慎重な態度を以て其所に自己の考を表して見ると云ふ事は、強ち罪ではないと思ひます、教授法といふ様な物でも、習つた丈それ丈を墨守し、それを未代までの丁規とし、一步も犯すべからざる教義とあがめてゆかれる物でせうか、私共はそれに飲まれてしまふべき程のものでせうか、どうして、教授法は私共の教授法ではありませんか、その教授法なる物によつて一般を會得し經驗をも得た以上は

そこに自分の新しい工夫をこらしてすん／＼人心の極致を穿つ様な物を施す様に努めて悪くはないでせう。

女子といふものがある方面に於て世の中から馬鹿にされるのは本當に悲しい事ですけれ共、たしかに女子にも欠點がないのではないでせう、ある意味に於て、

此頃ある通りを歩いてつく／＼感じさせられました、もつとよく知つて、もつと高い道德觀念を持ち如何に女子といふ者が國家の爲に大切であるか、女子の本質如何の國家に關係する事がどんなに大きいかと云ふ事を覺り自分の行をもつと高め、もつとかしこく、しつかりしない中は、(殆全部の女子が)それまでは一部の人が何んなに覺めよと叫んでも、いつでも裏切られて許り居るでせう、「女だから」といふ意味を一體世の中の女子は何う解釋して居るのでせう、「女だから自重しなくては」、「しつかりしないでせう」、「と云ふよりは、「女だから馬鹿にされるのはあたり前よ」「女ですもの仕方がないわ」私は何うしてこんな事を聞かなくてはならないのでせう、

徒らに變な生活をして新しがるといふ人はいざ不知健全な立派な日本の女らしい女子が欲しいと思ひます、唯玩具になる爲に生れて來たと思つて居る様な考は、影さへも早く消えて欲しいと思ひます、もつと適當な所に卑下し、もつと健實に目覺めて働きたいと思ひます、無暗に新しがつて突飛な眞似をする事も、賤婦の眞似も、男に赤い帶をしめさせた様な者になる事も、共に避くべき事と思ひます、どんな海外へ行つて居る者でも、賤しい者でも、すべてが日本の女と云はれた時、立派な婦人といふ事を連想させる事の出来る程の者でありたいと思ひます。

一體私共は何れ丈大切な時間といふものを損して居る事でせう、愚圖々々して居る間にどん／＼惡魔に取り去られて行つてしまつて、もつと、遊ぶ時には遊び、爲る時には専心に爲て、社會の爲を圖つてゆく方が好い遣り方だと思ひます。

私共が本當に失望し切つてしまつた時に、もう何方を向いても何所にも助け手がなく、又避け場も見えなくなつてしまつた時に、そしてどんな静かな所へ行つても足がよろ／＼して居る時に、それを落着

居る川の様だ。

「是れは私に解らない事はないのだ、私には屹度分るのだ」と云ふ確信を以て物に當つた時と、「どうか知らん大變六ヶしさうだから」といふ心で御目にかゝる時とは、同じ本を讀むにしても、これ丈の懸隔が有る事でせう、又私共は能く「あれもした、これも見た」といふ人のあるのを聞きます、こういう時に私達は先づ第一に自分から見限りをつけて貴い手を引込めるといふ様な事はその仕事が無駄な物でない限り決して致しません。

「一體何の爲にこんなに勉強して居るんでせう」この聲はよく聞きます、こんなに痛切な言葉があるでせうか、こんなにすべての事を赤裸々に云ひ表はしている文字があるでせうか、こんなにすべての人に向つて努力を促している言葉があるでせうか、こゝがつきとめ所です、私達の使命は決して決して一にして盡きません決して、進みませう、勇ましく、充實した力を以て、何時までも、何處までも。

Nothing to do の境地は眞に涅槃でありベルグソンの所謂サイレンスの域で、大になすある所以の物

けて再び元の生活に踏み返させ、更に立派な道を辿らせて呉れる物は、眞に理解した親切許りではないでせうか、若し人が、自分が苦痛に呻いて居る事を知らない時でも、少しでも心からの親切を盡して呉れた時に、その時に、痛み果てた心は再び生命を得て働き出すのではありますまいか、私共は生徒に向つた時にこういふ様な心で接したいと思ひます、自分の名譽、自分の地位などの爲に生徒の一人や二人は犠牲にするなんて恐ろしい心を持つ人はありませんでせう、色々な思想、色々な誘ひが押し寄せて來る間に浪に漂はされたあはれな雛菊は、知りきつた説話や、學説を聞かされ、ば聞かされる程、花片は散つて、香はうせて、枝は折られて、只、世の中の人のつれなさ許りを感じ、自分を強くし、自分を善くするより外に生命を維持してゆくのに道はない、と小さな心に思ひ込んでしまふでせう、そして其の氣の毒な心は次第に荒んで行つて、段々一人となつてしまつて、遂には本當の人のなさけに對しても固く心の所を閉め切り、あるものは生涯明ける事をしてないでせう、地の下から地の下を無茶苦茶に流れて

は實にこのに發する物であると思ひます。

In the world broad field of battle

In the binouae of Libe,

Be not like dumb, driven cattle!

Be a hero in the strife!

Trust no Future, home'er pleasant!

Let the dead Past bury its dead!

Act, act in the living Present!

Heart within, and God o'erhead!

(ロングフエロー、サム、チフ ライフの一節)

◎夏が來た

尋 三

夏が來た、僕の嫌ひの様な好きの様な夏が來た、來たも來たもお七夕になつてしまつた。所々の家の窓の障子ははづされてすだわがかゝつて居る、そのわきに蟲かこがつるさされて居る、菓子屋いも屋の類はたいい變つて赤くへり取られた中に「水」と書いてある旗が出た、方々の家ではしるぶふうりんを店先に出してある、扇風器の音も所々に聞える、あゝ、夏が來た、夏が來た。